



小学校 **「国際理解・環境教育」**の実践

総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」でユニセフ学習に取り組んだ千葉縣市川市立大野小学校 6年2組の松山幸子先生の実践をご紹介します。
(誌面の都合上、すべてをご紹介します。一部省略しています)

単元名 「ユニセフへのハートフル活動」

みんなに伝えたいー世界の子も達ー

単元の目標

- ・世界に目を向け、「自分ができ、環境によい具体的な取り組み」を続け、同時に生活を見直す。
- ・リサイクルショップを開き、リサイクルの大切さを確認すると共に、商品の内容を効果的に相手に伝える。
- ・2年間継続したユニセフ活動を、自らの考えで下学年に伝える。

活動計画[60時間]

1 ふれる『世界に目を向けたら』(3時間)

- ・「ジャワ島地震災害募金活動」をしよう。
- ・エコバザーをパワーアップさせよう。

2 つかむ『やっぱりユニセフ!』(8時間)

- ・情報を集めよう。
- ・地域にも出て募金活動をし、ユニセフに送ろう。
- ・できることから始めよう。リサイクル小物作り エコ日記

3 探究する『待っててください!』(35時間)

- ・今世界では ~ユニセフのひみつ~
- ・課題別グループ学習 エコバザー募金活動

ーエコバザー募金活動から世界の子も達へー

- ・今世界では
- ・水と生活
- ・水と病気
- ・学校に行けない
- ・働く子ども
- ・百円で…
- ・戦争と子ども
- ・ジャワ島では今
- ・ユニセフハウスでインタビュー

4 まとめ・生かそう

『もったいない、こそ合言葉』(14時間)

- ・子どもエコクラブ「壁新聞」に応募しよう。
- ・地域のゴミ拾いを学級活動にしよう。
- ・ふれあい広場の「リサイクル・エコバザー」をいかそう。
- ・バザーを成功させてユニセフハウスへ行こう。
- ・下学年にもわかるように発表会をしよう。

本時の活動

学習活動

- 本時のめあてを確認する。
- 「世界の子も達を伝えよう」を目指して、班ごとにインパクトのある「ナイスキャッチフレーズandマイショッププラン」で、4年生に紹介する。
- 4年生からの感想を聞く。
- ゲストティチャーから話を聞く。
- 自己評価をする。

支援◎と評価★

- ◎ 下学年への表現方法を工夫することを確認する。
- ◎ 班の全員が発表・実演するようにする。
- ◎ 説明が困難なときはゲストティチャーに支援を依頼する。
- ★ 相手の顔を見ながら、わかりやすく伝えることができたか。
- ★ 中間発表の質問やアドバイスが活かされたか。
- ★ ともだちのよさを発見できたか。

● 松山幸子先生のお話 ●

この2年間、学級の子も達の意欲的な取り組みは、リサイクル活動からユニセフへのハートフル活動と発展してきました。

子ども達は、ユニセフ活動を通して、世界の子も達がきびしい条件の中で懸命に生きていることを知り、心動かされ、募金や伝える活動を進めました。今回は、学級が15のグループに分かれ、それぞれが異なった方法で下学年に伝えようとした「共に生きる」学びを実践しました。

もうじき卒業していく子ども達ですが、遠くの空の下で希望を持って頑張っている子ども達のことを忘れずに、今自分はどうか生きるかを問い続けながら一步一步前進して行ってほしいと思っています。



写真は 大野小学校よりご提供いただきました。

● 子ども達の感想 ●

- ・ 11月から発表を見てもらう4年生といっしょに給食を食べました。5年生の時からエコ活動に取り組んでできました。
- ・ 僕はもっともっとユニセフの勉強をしてユニセフ博士になりたいです。おとなになっても困っている人を支援していきます。
- ・ 4年生から楽しくユニセフや世界のこと、自分のすべきことがわかったと言われてうれしかったです。
- ・ 私もおとなになったら、ユニセフの仕事をやってみたいです。

